



梅田中だより

<第4号> **6月**

1・2年生 校外学習を予定通り実施！



〔 榛名湖でカッター漕ぎ 〕

《1年 榛名高原学校》

5月16日（火）17日（水）と1泊2日で、1年生が榛名高原学校に行ってきました。

2日間とも天候に恵まれ、皆で声を合わせて心をつにし、一生懸命にカッターをこいできました。初めてのカッター漕ぎでは、なかなか思うように進むことはできませんでしたが、声を合わせるうちにみるみる上達しました。また、榛名湖周辺で行ったウォークラリーも、グループに分かれて実施いたしました。計画した全ての活動を行うことができ、学級の団結力を高めることができました。

《2年 東京校外学習》

5月30日（火）2年生が東京校外学習を実施しました。天気予報では、高確率での雨予報でしたが、当日は天候に恵まれ、雨に降られることもありませんでした。

今年度は、「東武グループ社会学習応援プログラム」を利用しての実施です。そのため、班ごとに計画した場所を見学した後に、東京スカイツリーに集合し、東京スカイツリーの構造について学習しました。普段では見学できない場所にも入って見学することができました。



〔新桐生駅校内での写真〕

JRC登録式

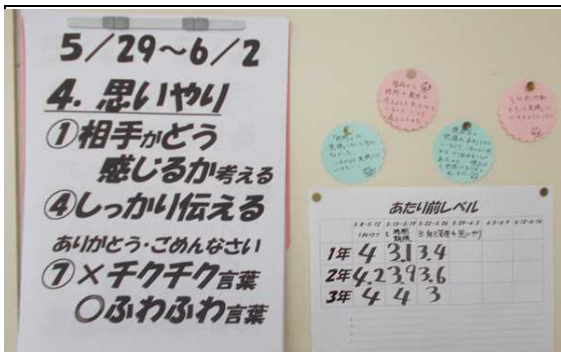


〔 誓いの言葉を唱和 〕

5月22日（月）朝の生徒集会でJRC（青少年赤十字）の登録式が行われました。登録式は、学級・JRC委員会の司会・進行で行われました。学級・JRC委員長の3年 さんから、JRC活動についての目的と「気づき・考え・行動（実行）する」という態度目標についての説明が行われました。その後、各クラス代表者による登録署名を行い、最後に「誓いの言葉」を学級・JRC委員の先導に続き、全校で唱和を行いました。JRC活動は、第一次世界大戦中の時に、こども（生徒）が、自分たちで気づき、自分たちで考え、行動したことから生まれた活動です。「人の命と尊厳を守るために…」「みんなが幸

せになるために…」自分には何ができるのだろうか？そんなことを、JRC活動をきっかけに考えてほしいです。

梅田中 ATM活動



[梅田中 ATM 活動掲示物]

《 土砂災害の前兆 》

かみけ崩れ

- ① 斜面にひび割れができる
- ② 砂や小石が落ちてくる
- ③ 斜面から水が湧き出る
- ④ 斜面から音がする

地すべり

- ① 地面がひび割れたり、陥没したりする
- ② がけや斜面から水が噴き出す
- ③ 沢や井戸の水が濁る
- ④ 山鳴り、地鳴りがする
- ⑤ 樹木が傾く

土石流

- ① 山鳴り、地鳴りがする
- ② 急に川の水が濁り、流木が混ざり始める
- ③ 土の腐った匂いがする
- ④ 大雨が続いているのに、川の水位が下がる
- ⑤ 木の裂ける音や石がぶつかる音がする

「梅田中ATM」とは、「梅田中のあたりまえ (ATAR IMAE)」を意味している言葉です。

「梅田中学校でのあたりまえとは、どのようなものか？」を各学級で話し合っ具体的行動をあげてもらい、学級委員会で決定します。その後、1週間毎に目標を決めて各生徒が取り組み、自己評価カードを利用して振り返ります。

自分たちで自分たちの行動を振り返り、生活態度を向上させる取組です。

《土砂災害避難訓練》

5月24日(水)土砂災害の避難訓練を実施しました。

授業を受けている最中に土砂災害が起これ、A棟3階に垂直避難するという設定です。どの生徒もおしゃべりをせず、しっかりと取り組んでいました。

訓練の後は、町会に分かれてのグループワークです。自分たちの住んでいる地区の地図(桐生市土砂災害ハザードマップ「各町会版 自主避難計画」)を使って、危険がありそうな場所、いざというときに避難する場所などを確認しました。



[危険箇所の確認]

中間テストにむけて取り組みましたか？

本年度は、中間テストの数日前にはワーク(課題)提出を終了するよう、各教科担任の先生にはお願いしました。また、中間テスト前にプレテストも実施し、生徒一人一人が中間試験に向けた家庭学習に取り組めるようにしましたが、ご家庭での様子はどうだったでしょうか。

テストというと、どうしても点数が目がいってしましますが、大切なのは定期試験に向けて、どう取り組めたかです。計画的に取り組むことができたか(計画力)、試験に向けて粘り強く取り組むことができたか(忍耐力、グリット)等など……定期試験に向けた勉強を通していろいろな力(非認知能力)を養っているのです。そして、何よりも「自分で学ぶ」という経験、力をつけることが重要なのです。

お子さんと試験(結果)について話すときには、ぜひ、取り組みの良かった点についても触れてください。そして、思うような点数がとれなかった時には、「学習時間」「やる気」「学習方法」の何が原因なのかを振り返らせてください。ただし、問い詰めるような厳しい口調は厳禁です。本人に自覚させる(気づかせる)ことが大切です。勉強でもスポーツでも、外的動機付け(褒美や罰、強制による動機付け)は、内的動機付け(本人の内側から起こる動機付け)にかないません。本人が「頑張りたい!」と思わせることが大切です。

